

M41a 太陽黒点は（未確認の）”向太陽循環水流”がつくる現象？

藤原ケイ

太陽黒点は 太陽内部起因の現象ではなく、外部起因である可能性をこれまで述べた。(2017 秋、2018 春)

[興味ある関係] ”木星と 133 P が外合のとき黒点発生は極大になり、内合のとき極小となる”

この関係を合理的に説明する場合 未確認ではあるが ”太陽系の外側から太陽に向って H₂O (水) を主体とする流れが存在する” と考えるのが自然だろう。これを ”向太陽循環水流” と呼ぶことにする。向太陽循環水流は 太陽風によって太陽から放出された原子群 (H, C, O, N 等) が 太陽系外周部で H₂O、CO₂ 等に結合・分子化して 再び太陽に向って還流するイメージのものである。

また 関連する現象として地球における強い竜巻、ENSO (エルニーニョ・南方振動)、台風発生等に 地球と 133 P、176 P の内合時期は密接な関係がある。(気象学会 2018 春、2019 春 筆者報告)

この関係は 太陽に向う水流が その途中で地球と衝突するときの現象と考えると良く理解できるだろう。

今回の報告は 地球の現象からの知見を加えて、黒点相対数の推移と木星/133 P、176 P の黄経・黄緯差等との関係を並べて読み直し、偶然の関係ではないことを示したい。

尚 133 P (エルストピサロ彗星)、176 P (Linear 彗星) はともに小惑星帯にあり、公転軌道面に近い位置を周回する周期彗星であり、互いの周期が近いため 約 380 年という長い相対周期で、接近したり離れたたりしている。(現在は 離れて周回している時期である.)

また 向太陽循環水流は定常流であり、133 P、176 P が作る乱流要素が太陽黒点や地球の台風を発生させていると考えている。